

公益信託世田谷まちづくりファンド

第23回助成事業 審査講評

全体講評

運営委員長 土井 良浩

■ ごあいさつ

今年度から運営委員長に就任した土井です。私とともに小林、坂倉、千葉、矢崎委員の4名が新たに加わり、留任した齋藤、関口、富田、松村、水谷の各委員と合わせて総勢10名で世田谷まちづくりファンドの運営を担ってゆくことになりました。

運営委員(会)の仕事は、ファンドの基金の運営と毎年助成事業の実施について、ファンド事務局である三井住友信託銀行に勧告や助言を行うことです。具体的には、助成部門を新設・再編したり、助成先や助成金額を事実上決定したりする役割を担うこととなります。その運営委員の役割とも関連するため、当ファンドの現況についても少しだけ触れておきましょう。今年で23年目を迎えた当ファンドは、昨年度末現在1億400万円ほどの財産を有しています。最大時には1億8700万円ありましたが、寄付金の大幅な減少や補填(追加信託)がなくなったことにより、ここ数年は支出分だけ財産額が減少してきています。運営委員はファンド設定の趣旨である、「世田谷区における住民主体のまちづくりの促進を図る」ために、この残りの財産の使い方を考えてゆくこととなります。土肥前運営委員長のご就任時は度重なる議論を経た末に、幾つかの助成部門を新設されたと伺っておりますが、われわれもじっくりと話し合いながら基金の効果的な使われ方を考えてゆきたいと思えます。それから我々のもう一つの仕事である「審査」について。当ファンドでは毎年度末頃に次年度の予算額を決め、よほどのことがない限り助成事業はその枠内で行われます。予算に上限があるので、私たちは全ての応募企画や申請された金額を100%受け入れることは難しいものがあり、この点は皆さんにご理解をいただければ幸いです。

いずれにしろ、私たち運営委員は皆さんの活動を応援したいという志を第一に持ち、世田谷のまちづくりの多様性や厚みを増すためにベストを尽くしたいと考えています。ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。

■今年度の助成事業と公開審査会の結果について

前任の土肥委員長時代にハード整備部門である「まちを元気にする拠点づくり部門」が終了し、新たに「10代まちづくり部門」「災害対策・復興まちづくり部門」「キラ星応援コミュニティ部門」の3部門が設置されました。今年度はこれらに従来の「はじめの一步部門」「まちづくり活動部門」を合わせた全5部門構成の助成事業を行うこととなりました。

3月から募集を開始し、締切までに「災害対策・復興まちづくり部門」に3件、「10代まちづくり部門」に1件、「はじめの一步部門」に9件、「まちづくり活動部門」に24件の、全37件(申請額1,195万円)の応募がありました。この数は例年に比べて多く、23年目を迎えてなお、当ファンドの必要性が色あせていないことを示していると思われます。

そして、5月23、31日に開催された公開審査会の結果、全35件に対する助成が決定し(助成総額約700万円)、その半数に当たる17グループが新たに加わりました。今年度の企画で目立った分野は、若者による若者の居場所づくりや就労支援であり、6月23日に開催されたファンドの助成を初めて受けたグループの交流会(トラストまちづくり主催)にも沢山の若い方々が参加されました。また、介護予防等の高齢者向けの活動企画も一定数ありました。これら時代に即した新たな分野を加えつつ、緑や自然環境の保全・活用、障がい者の社会参加の支援等、従来からある活動も多数見られました。このように時代状況に合わせて新たな活動が担い手とともに生まれ従来のものに加わり、まちづくりの多様性がたらされていることは喜ばしく、まちづくりが文化として定着した世田谷の力を感じることができた今回の審査会でした。

採用されたグループの皆さま、改めましておめでとうございます。この一年の間に企画以上の成果が生み出されてゆくことを楽しみにしています。

■今後について

「災害対策・復興まちづくり部門」は設立から3年が経ちましたが、東日本大震災から丸4年が過ぎて被災地の状況も変化しつつあり、一方で、同部門応募件数が第1回目から減少傾向にあります。そういった諸々のことを勘案し、「一端これまでの成果の総括をしてみてもどうか？」との考えのもと、審査会当日に同部門の3年間の成果の整理・共有を目的とするワークショップを行いました。この結果を材料として、今後同部門の取り扱い方を運営委員会で検討してゆく予定です。

昨年度にスタートした「キラ星応援コミュニティ部門」は2年間でひとまとまりの部門設計となっていて、未だ一周しておらず、部門のスキームも動かしながら固めている

ところでは、今年度は9月に一次審査会、12月に二次審査会を予定しています。同部門は現在ファンドの他部門で助成を受けているグループも応募可能なので、応募をご検討いただいても結構ですし、興味のある方は審査会場に足を運んでいただけたらと思います。

その他、公開審査会や活動報告会の進め方についても今後委員会で議論し、必要であれば、改良していきたいと考えています。皆さんもご意見などございましたら、お伝えいただけたら幸いです。

■ 個別グループの講評

審査会当日にもお話ししましたが、私個人としては、ファンドの設定趣旨や応募の手引きの「審査の重点」に適っている企画には全て投票しました。また助成金額の査定については個々の企画内容により判断し、特に備品類については全体的に減額させていただきました。審査会当日は質疑の他、ポスターセッションもあったのですが、残念ながら全グループとはお話しできませんでした。その補足も兼ねて、以下各グループの企画に対して私の感想を記しますので、お話しできなかったグループはどうかご容赦いただきたく思います。